

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	1470800820
法人名	株式会社 保健科学研究所
事業所名	グループホーム 金沢 けやき園
訪問調査日	平成20年2月8日
評価確定日	平成20年3月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月28日

【評価実施概要】

事業所番号	1470800820
法人名	株式会社 保健科学研究所
事業所名	グループホーム 金沢けやき園
所在地	236-0042 横浜市金沢区釜利谷東4-3-26 (電話)045-791-7181

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成20年2月8日	評価確定日	平成20年3月28日

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年 5月 1日
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計 27 人
職員数	28 人	常勤 27 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 27 人

(2)建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	12 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 85.3 歳	最低	68 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	港南台病院、金沢文庫病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体は株式会社保健科学研究所でこの会社は臨床検査を中心として全国70ヶ所余の検査センターを展開しており、同じ系列に病理組織検査中心の株式会社組織科学研究所、病院経営等を目指している株式会社カスタムメディカル研究所があり、株式会社カスタムメディカル研究所ではグループホームを8ヶ所経営し、小規模多機能型居宅介護の展開も図っている。今回、このグループホーム 金沢けやき園は株式会社保健科学研究所で開所することとなり、株式会社保健科学研究所の第1号ホームとして平成16年5月に開業し、その後栄区に1ヶ所開所、今夏には中区に1ヶ所を予定している。系列企業で持っているノウハウを活用して展開を図っている。ロケーションは金沢文庫駅から徒歩13分と云う至近距離にありながら、大通りから少し入ったこのあたりは緑に囲まれた住宅地で観葉植物なども置いて落ち着いた佇まいである。ホームは3ユニットで玄関を含めた周囲のスペースはゆったりしており、外でのバーベキューなどが充分楽しめる余裕ある設計である。内部についても玄関ホールや会議室等がある余裕ある作りとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	入居者中心にケアの徹底に今年度も重点を置いて展開を図った。「職員としてのこころ」の定めに「主役は入居者様、スタッフは脇役」とし、これを全員が守っている。例えば食材は3ユニットで大量になるので食材業者からレシピ付きで仕入れ、これにより出来た余暇を利用者さんへのケアに当て、毎日の散歩、月1回のドライブ、各種行事の実施、年1回のご家族協力によるバスツアーなど一緒に楽しむ企画を実行している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	① 理念の中に「地域に融合した…」と云う語句があり、利用者さんに対しては毎朝唱和している「職員としてのこころ」11項目があり、これらを実現するための気付きと反省のための外部評価として位置付けている。職員はこの意義を充分理解しており、自己評価及び外部評価により、より良い介護に取り組んで行くことにしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議は平成19年8月に第1回目を開催し、以降計3回実施している。自治会長さんとは関係が有り、大家さんとも親しい関係の方であったので、率直に御相談し会への協力や民生委員のご紹介などスムーズに運ぶことが出来た。メンバーは町内会長、民生委員、大家さん(地域代表)、ご家族2名とホーム関係者でオブザーバーとして釜利谷地域ケアプラザ(地域包括支援センター)の方である。第1回目はホームの紹介が中心であった。議事としては消防・避難訓練等への協力の申し入れがあったりで友好的な会の運営となっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	ご家族は地元の方が多く定期的に訪問してくれている。そのうち2/3はかなり頻繁に来所されている。地元ボランティアの方がおり、ご家族とも協力してくれるのでバスによる遠出の旅が可能となり、バス2台を連ねたバス旅行も定期的に出てくる。ご家族への連絡は勿論、来訪時に詳しくお伝えしているが、それと併せて「けやき園通信」及び個人別に「ご家族だより」を毎月1回発行しお送りしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	地域の関係については①町内会のお祭りやもちつき大会に参加している。②ホームの行事としてはホームの夏祭り、もちつき大会へご近所の方をおまねきしている。③白百合幼稚園の子どもたちが12月頃来てくれてお遊戯会で踊ったものをホームに来て披露してくれている。④能見台南小学校の個別支援学級の子どもたちが来てくれて朗読会を楽しんでいる。⑤釜利谷、西金沢ケアプラザによるケアマネジャーネットワークがあり民生委員、高齢者施設のケアマネジャーの連絡会となっており、当ホームのケアマネジャーも参加している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1と2に渡った理念をつくっており、職員はそれを熟知しており、時々は申し送りの中で唱和している。		今後も地域密着に向けて継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念は全職員が承知しており、朝の申し送りで、毎日ではないが皆で唱和している。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会のお祭りなどの参加や、町内会館を利用、グループホームの夏まつりやもちつきなどの行事には近隣の方々も参加してくれている。白百合幼稚園の子どもたちが12月頃来てくれてお遊戯会で踊ったものをホームに来て披露してくれている。釜利谷、西金沢ケアプラザによるケアマネジャーネットワークがあり民生委員、高齢者施設のケアマネジャーの連絡会となっており、当ホームのケアマネジャーも参加している。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	「職員としてのこころ」11項目があり、これらを実現するための気付きと反省のための外部評価として位置付けている。職員はこの意義を充分理解しており、自己評価及び外部評価により、より良い介護に取り組んで行くことにしている。	○	自己評価、外部評価により、今よりより良い介護に取り組んでいきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は平成19年8月に第1回目を開催し、以降計3回実施している。自治会長さんとは関係が有り、大家さんとも親しい関係の方であったので、率直に御相談し会への協力や民生委員のご紹介などスムーズに運ぶことが出来た。議事としては消防・避難訓練等への協力の申し入れがあったりで友好的な会の運営となっている。	○	意見交換等で今よりもっと地域密着の介護に活かしていきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の実践者研修生の受け入れを行っており、市の企画の研修会にも参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「けやき園通信」及び個人別に「ご家族だより」を毎月1回発行し、暮らしぶり、健康のことなどA4の写真付きで出している。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会も多く、管理者、職員は必ず挨拶、話をしている。直接言ってもらう事も多く、外部の相談先名と電話番号をお知らせしている。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常日頃から3ユニットの入居者は、ボランティアのイベントや園の行事等で他のユニットの職員ともなじんでおり、職員の方も他ユニットの入居者にも声かけを常に行っている。代わる場合にもそれほど違和感はない。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年間の研修の計画を立てており、必要に応じてキャリアアップを援助している。研修を受ける機会も確保している。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修も行っており、地域との交流の機会には参加し、ネットワークづくりの会もあり、参加を行っている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の安心、安堵を見極め、なじんでいただくまで、家族と蜜に連携を取り合い、落ち着いてもらえるよう工夫を行っている。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の知識、昔の知恵などを教わったり、年長者として尊敬し、支えあい、生活を共に楽しんでゆく関係を作っている。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お好きなことがある方には、なるべくそれを活かしたケアを心がけている。意向の把握に努めており、本人本位になるように出来るものは努めている。その場、その時の本人の言葉、行動や心理をキャッチし、より意向にそった介護を行っている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎回1回のリーダー会議やユニット会議にて話し合い、介護計画に反映している。	○	家族にも出来るだけ意見を聴いていきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に変化があった場合は、必要に応じ計画の見直しを行っている。定期的には長期と短期の見直しを行っている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所はグループホームだけであるので、多機能性は持っていないが、その中で家族の状況に応じた柔軟な支援を行っている。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の内科往診や歯科往診、整形外科医の往診などを受けている。家族が入居する以前のかかりつけ医を希望される場合はその関係を大切に、入居者に一番合っている医療が受けられるよう支援している。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	出来る限りは入居を続けてもらっている。ここで対応できなくなる場合については、入居時に説明を行っている。医療行為は出来ないので、必要になった時は専門科にて入院治療を行っている。		今後も継続して検討して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の方は大切なお客様と考えており、認知症があるからと不用意な言葉を掛けたり、誇りやプライバシーを傷つけるような対応は行っていない。個人情報の取り扱いも正しく行っている。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、買物、レク等いろいろ毎日の行事があるが、本人の希望を第一にし、無理や強制は行っていない。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けや盛り付けにも工夫をし、お皿など食器にも気を配っている。入居者と職員と一緒に食事作りや片づけをしている。冬場は食卓で召し上がっていただけるよう鍋料理も取り入れている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりのペースで無理なくゆったりと入ってもらうようにしている。入浴時は皮膚や体のチェックもあわせて行い、変化にも気をつけている。コミュニケーションをとり、一緒に歌を歌ったりしながら楽しく入浴してもらっている。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの出来る事に応じ、調理、ちぎり絵、編み物、習字、絵手紙、合唱、菜園の世話など好まれる楽しみごとの支援をしている。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日は毎日の散歩は欠かさずに行っているが、希望があれば一緒に買物や喫茶に行っている。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、各ユニットの玄関にも鍵はかけていない。出て行く方でもないではないが、所在確認を怠らないよう見守りをしている。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署の避難訓練も受けており、運営推進会議にて地域の人々の協力も得ており、避難場所の確保も出来ている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算されたメニュー食材が届き、バランスのよい食事を摂取できている。主食、副食、水分量を毎回記録に残し、一人ひとりの状態を把握している。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間、食堂には季節の花や飾り付けを行い、廊下には外出時の写真やちぎり絵、習字など入居者の作品などを飾り、話題作りになったり、生活感や季節感を感じてもらっている。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室内には自由に好みものを置くことができ、使い慣れた家具や好み飾り付けをした居心地のよい部屋となっている。	○	レベル低下に合わせて、危険(事故)のないよう、家族と相談しながら、多少の模様替えも必要となってくる。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム 金沢 けやき園
所在地 (県・市町村名)	236-0042 横浜市金沢区釜利谷東4-3-26
記入者名 (管理者)	小屋野 京子
記入日	平成 20 年 2 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	1と2に渡った理念をつくっており、職員はそれを熟知しており、時々は申し送りの中で唱和している。		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	基本理念は全職員が承知しており、朝の申し送りで、毎日ではないが皆で唱和している。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
	運営推進会議や町内の方々をご招待した行事などで、入居者の方々と同席をしていただき、普通の暮らしをしている様子を見ていただき理解していただけている。		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	花や野菜等も作っており、ご近所の方も種や苗を下さったり、今の季節は何々を植えたらいい等アドバイスをもらったりしている。		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	町内会館を利用することも多く、夏まつりやもちつきなどの行事には近隣の方々も参加下さっている。		
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ボランティアさんによる音楽イベントなどの訪問があり、その時に地域の高齢者さんも楽しんでいただき、食事と一緒にとお誘いの声を掛けているが、まだ参加してはいただけていない。	○	入居者さんと地域の高齢者の方々との交流の場を持っていきたい。
---	--	--	---	--------------------------------

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義は全員理解しておりケアに活かしている。	○	自己評価、外部評価により、今よりより良い介護に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第3回運営推進会議があったばかりで、園のサービスや介護の向上に活かしている。	○	意見交換等で今よりもっと地域密着の介護に活かしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の実践者研修生の受け入れを行っており、市の企画の研修会にも参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	講習会には参加し、学んでいる。成年後見制度を受けている人も数人おり、これから必要と思う方へも説明を行い、支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し勉強をしている。目に見える虐待だけでなく、言葉の虐待もあることを管理者、職員とも理解できており、注意し、防止している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族には十分な説明を行い、理解を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には意見、不満、苦情を言える人ばかりではないが、言ってくれる人には耳を傾け、言えない人にも意見が出るような話しかけを行っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度は家族宛の手紙を出している。暮らしぶり、健康のことなどA4の写真付きの手紙を毎月出している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会も多く、管理者、職員は必ず挨拶、話をしている。直接言ってもらう事も多く、外部の相談先名と電話番号をお知らせしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞く機会というのは特別に設定していないが、月に1度ユニット毎の会議を行っており、そこでの機会があり、反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ユニットの職員はやや厚めに配置を行っており、状況の変化や要望があったときは、ユニットの職員だけでなく事務所の職員も柔軟に対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常日頃から3ユニットの入居者は、ボランティアのイベントや園の行事等で他のユニットの職員ともなじんでおり、職員の方も他ユニットの入居者にも声かけを常に行っている。代わる場合にもそれほど違和感はない。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>1年間の研修の計画を立てており、必要に応じてキャリアアップを援助している。研修を受ける機会も確保している。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>交換研修も行っており、地域との交流の機会には参加し、ネットワークづくりの会もあり、参加を行っている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の歓迎会、懇親会、慰労会、忘年会などを行い、職員同士のコミュニケーションやストレス軽減に努めている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格に応じ手当をつけ、学校に通う職員には、勤務日を配慮している。</p>		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご本人とは、管理者、リーダーもよく話を伺い、不安をお聴きし、どのようなことを望んでいただけるのかもよく聴き、説明を行い理解していくよう努力をしている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族ともよく話し合い、不安に思っていること、望んでおられることをよく聴く時間をとり、理解する努力をしている。</p>		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>今まず必要としている支援は何なのか、よく見極め、よくお聴きし、対応に努めている。</p>		

26	<p>○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬように馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人の安心、安堵を見極め、なじんでいただくまで、家族と密に連携を取り合い、落ち着いてもらえるよう工夫を行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の知識、昔の知恵などを教わったり、年長者として尊敬し、支えあい、生活を共に楽しんでゆく関係を作っている。</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族とは常に連絡、連携を取り合い、訪問していただく機会も作り、本人と一緒に支えていく関係を作っている。</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>本人と家族はここに入られるまではお互いに疲れがあったと見える時もあり、家族にとっては時間ができた事で疲れが癒され、本人との関係がより良くなるように支援している。</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>いつでも面会に来られることや、外出、外泊は自由であることも周りの方に伝え、手紙や電話の支援もしている。</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>職員は申し送りや会議により、入居者同士の関係、立場を熟知しているので、孤立や対立をしないよう努めている。</p>		
項目		<p>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</p>	(○印)	<p>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</p>
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>いつでも電話をかけたり連絡をいただけるよう支援を行ったり、葉書を出したりしている。</p>		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お好きなことがある方には、なるべくそれを活かしたケアを心がけている。意向、把握に努めており、本人本位になるように出来るものは努めている。	○	その場、その時の本人の言葉、行動や心理をキャッチし、より意向にそった介護を行っていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には生活暦の書類を受け取り、家族からは詳しく本人の今までの生活環境や好まれること、好まれないことなどお聴きしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員はきめ細かく目配り、気配りにて心身の変化にも気づいて対応している。出来ることと出来ないことの把握にも努めている。	○	一人ひとり、楽しく安全に穏やかな一日を過ごしていただきたく、日々話し合い、少しでも充実した毎日を送っていただくよう、より一層取り組んでいく。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎回1回のリーダー会議やユニット会議にて話し合い、介護計画に反映している。	○	家族にも出来るだけ意見を聴いていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に変化があった場合は、必要に応じ計画の見直しを行っている。定期的には長期と短期の見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護日誌、介護記録を一人ひとり個別に記入している。状態などに変化があれば会議にて話し合っている。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>当事業所はグループホームだけであるので、多機能性は持っていないが、その中で家族の状況に応じた柔軟な支援を行っている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>民生委員、ボランティアさんの協力や警察の巡回、年2回の消防訓練などを通じ協働している。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>マッサージの往診や介護タクシーの利用などをしてもらっている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括支援センターのケアプラザケアマネさんとはお互いの会議に出席し合ったり関係を深めている。権利擁護や色々な議題の会議を行っている。</p>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>月に2回の内科往診や歯科往診、整形外科医の往診などを受けている。家族が入居する以前のかかりつけ医を希望される場合はその関係を大切に、入居者に一番合っている医療を受けられるよう支援している。</p>		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症に詳しい医師と相談等していただける支援を行っているが、まだまだである。</p>	○	<p>認知症の相談をしていただける医師の紹介は行っているが、主治医となっていただけ連携には至っていないので、取り組んでいきたい。</p>
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	近くの24時間対応の訪問看護ステーションと連携を取っており、健康管理や医療の相談やアドバイスを受けている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはなるべく多く訪問し、安心していただくと共に、担当医師に面談を求め情報を得ている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	出来る限りは入居を続けてもらっている。ここで対応できなくなる場合については、入居時に説明を行っている。医療行為は出来ないので、必要になった時は専門科にて入院治療を行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホーム内で医療行為は行えないので、重度や終末期に入院治療の必要があれば、もっとも適した医療機関への入院治療を家族と話し合っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居される方にはよく説明を行い、本人からも話を伺い、前のケアマネージャーさんや家族から情報交換を行っている。慣れていただくまで職員全員で支援し、少しでもダメージのないように努めている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
○プライバシーの確保の徹底	1. 利用者の方は大切なお客様と考えており、認知症があるから			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の力は大切なお各様と考えており、認知症かめるからと不用意な言葉を掛けたり、誇りやプライバシーを傷つけるような対応は行っていません。個人情報の取り扱いも正しく行っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	耳を傾け希望や要望を聴くようにしており、入居者さんに説明し納得して暮らせるよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、買物、レク等いろいろ毎日の行事があるが、本人の希望を第一にし無理や強制は行っていません。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやその人らしいおしゃれが出来るようアドバイスや支援をしている。理容、美容は訪問を受けている。どうしても外の理美容を希望される人は職員や家族が対応している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けや盛り付けにも工夫をし、お皿など食器にも気を配っている。入居者と職員と一緒に食事作りや片付けをしている。冬場は食卓で召し上がっていただけるよう鍋料理も取り入れている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	たばこの方は火の始末に気をつけ、決まられた場所にて楽しんでいただくようにしている。飲み物おやつも、時には手作りのものを出している。お誕生日会や外食や行事の時は、ビールやシャンパン等楽しんでもらっている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックをつけており、パターンを把握し一人ひとりに合わせた支援をしている。排便のチェックも申し送り、排便の状況の把握を通じ、便秘にならないように対応している。		
	○入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりのペースで無理なく入浴したりして暮らせるよう支援している。		

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりのペースで無理なくゆつたりと入つてもらいようにしている。入浴時は皮膚や体のチェックもあわせて行い、変化にも気をつけている。コミュニケーションをとり、一緒に歌を歌ったりしながら楽しく入浴してもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、その日の体調に応じて声かけ、見守りをしている。夜よく眠れるよう日中はラジオ体操、散歩などにて体をできるだけ使うような支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの出来る事に応じ、調理、ちぎり絵、編み物、習字、絵手紙、合唱、菜園の世話など好まれる楽しみごとの支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来な方がほとんどであるが、本人の力量に応じお金の所持や使用を支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日は毎日の散歩は欠かさずに行っているが、希望があれば一緒に買物や喫茶に行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に一度は家族会としてバスツアーを行っており、昨年は上野動物園、一昨年は浅草皇居二重橋に行っている。いづれも何十年ぶりの事で好評であった。	○	個人のふるさと訪問、映画、演劇等の希望があれば支援していきたいと思っている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由に電話は使用していただいている。かかってきた場合は取り次ぎをしている。手紙も本人にお渡ししたり、代筆を行ったり、投函の支援などをしている。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人の訪問は多く、個室やリビング等過ごしやすい場所で会っていただいている。お茶の接待や食事などの提供もしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束になるような無理強いはしていない。危険が予想される時は見守りで対応している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、各ユニットの玄関にも鍵はかけていない。出て行く方でもないではないが、所在確認を怠らないよう見守りをしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在確認をし、夜勤帯は時間を決め巡視に訪室し、安全確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態を把握し、危険なものではないがその方には危険であるものは、職員が預かり必要ときに渡している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各ユニットカンファレンスを通じ、一人ひとりのケアについて学びあっている。転倒、窒息、誤薬、徘徊などになる前のヒヤリハット等を出し合い、事故にならないよう取り組んでいる。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急時の対応マニュアルも全職員が保持しており、必要な場所に啓示している。年2回の救命救急訓練も消防訓練と共に行っている。		
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署の避難訓練も受けており、運営推進会議にて地域の人々の協力も得ており、避難場所の確保も出来ている。		
72	〇リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族の訪問も日頃から多く、職員とのコミュニケーションもとれており、家族にはリスクの説明も出来ているが、今を大切にしたい暮らしをしていただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	〇体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日血圧、体温、脈の記録をし、伝達を行い、情報を職員全員が共有している。日中よく対応を行って、顔色や体調の変化にも気づくことが出来ている。		
74	〇服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の処方情報にて勉強し、持病についても把握している。服薬にあたっては、間違いのないよう名前、日付、朝昼夕の確認をしている。		
75	〇便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	普段より乳製品(牛乳、ヨーグルト)を摂るようにしており、寒天のおやつも多用している。食事にも野菜を多く摂れるよう配慮している。ラジオ体操やレクリエーション、散歩などを毎日行っている。		
76	〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、誘導や声かけにて歯みがきを行っている。うまく自分で出来ない入居者には、職員が磨きなおしをしている。義歯の方は夜間ポリデントにて消毒、洗浄をしている。週一回の歯科往診時には義歯の手入れや口腔ケア、相談などを行っている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算されたメニュー食材が届き、バランスのよい食事を摂取できている。主食、副食、水分量を毎回記録に残し、一人ひとりの状態を把握している。		
	〇感染症予防	感染症の予防は職員と順治参加、感染症の...		

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の研修には職員は順次参加し、感染症のマニュアルもあり勉強している。インフルエンザの予防接種も行い、常日頃は手洗い、うがいを欠かさず行っている。次亜塩素酸のうすめ液での消毒も行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の調理用具等は毎晩洗浄消毒を行っている。食材が届くとすぐに賞味期限の確認や痛んだ古いものはないか確認している。大きな冷凍冷蔵庫もあり、食材は安全に口に入るまで管理できている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物のまわりには季節の花や果物、野菜を植えており、入居者と一緒に手入れなどを行っている。近隣の方々も今の季節はこれこれを植えなさい等アドバイスして下さり、野菜の苗や作った花を下さったりしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間、食堂には季節の花や飾り付けを行い、廊下には外出時の写真やちぎり絵、習字など入居者の作品などを飾り、話題作りになったり、生活感や季節感を感じてもらっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の部屋にはソファがあり、TVやくつろぎたい時には自由に利用でき、廊下の端やベランダにはベンチが置いてある。庭にはガーデンテーブルとチェアもあり、外でもくつろげるようになっている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室には自由に好みのものを置くことができ、使い慣れた家具や好みの飾り付けをした居心地のよい部屋となっている。	○	レベル低下に合わせて、危険(事故)のないよう、家族と相談しながら、多少の模様替えも必要となってくる。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>窓の開閉は一日一回必ず行い、換気をはかっている。温度調整はこまめにエアコンにて行っており、乾燥しやすい季節は加湿器を使用している。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内はバリアフリーであり、廊下も広く、車椅子やシルバーカーでも安全に移動が可能である。廊下、トイレ、浴室にも手すりを設置しており一人ひとりの身体機能を活かした生活が出来ている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>洗面具セットにも名前をつけ個人個人のトレイとし、個人の靴箱には名前をつけ、自分で脱ぎ履きが行えるよう、居室には一人ひとり異なった手作りの表札をつけ、部屋の間違いをしないよう工夫を行っている。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>園庭には花壇や菜園を作り人居者、職員で育てている。ベランダでもプランターや植木鉢で花を育て、ベンチにてゆっくり休んでいる。庭にはガーデンテーブル、椅子あり、気候のいい季節には庭でお茶会や昼食会を楽しんでおり、夏まつりやバーベキューパーティーや年末にはもちつき大会を行っている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的環境の中でその人らしく生活を送っていただいている。少しでも認知症の低下をゆるやかにしたいと、日々楽しい生活であるよう努めている。季節の行事として、節分、ひなまつり、お花見（さくら、つつじ、しょうぶ、あじさい、紅葉等）、夏まつり、クリスマス会、もちつき大会などを行い、季節を感じてもらっている。年に一度はバスツアーにて家族と一緒に日帰り旅行を楽しんでいただいている。